

布地の多様な表情を引き出す風合い加工

— 繊維のものづくりを通じて、創造する喜びをお客様と共に育む —

顧客満足度の高いサービスを提供

明治22年創業の東京和晒株式会社は、葛飾区立石地区の住宅街で繊維加工業を営んでいます。産業構造の変化に伴い廃業する同業者が多い中、時代の変化を的確に捉え、都内で繊維加工業を続けている秘訣を探ってみました。そこには、繊維のものづくりを通じて、創造する喜びをお客様と共に育み、心豊かな文化と夢と幸せを提供したいという企業理念がありました。

満足度の高いサービスを提供するにはどうすればよいのかを常に考え、実行してきたことが、顧客からの信頼に繋がっています。その背景には、信頼される高い技術があります。



図1 東京和晒株(株)本社

得意技を生かした多種多様な加工

社名が示すように、創業当初は綿布の晒（染色の前工程として不純物を取り除いて漂白する工程）を生業としていました。現在では、織物や編物の染色や仕上げ、風合い加工、検査を行う総合繊維加工業として幅広く事業を展開しています。中でも得意技は、布地の表情を顧客の要望に応じて変化させる風合い加工です。パイオ酵素やパワーボールを使って、布の腰を柔らかくするワッシャー加工、合成洗剤等を一切使わずに、自然界にある天然石鹼で加工を施す超天然加工、ニット生地などの洗濯収縮率を改善する防縮加工など、確かな技術に裏打ちされて、布作りのマジシャンと呼ばれる所以がここにあります。

IT化により徹底した工程管理

繊維加工業は、風合いや感触など言葉で表現しづらい仕事に関わっているため、顧客とのトラブルも起こります。トラブルを未然に防いで顧客に信頼される会社にするために、瀧澤社長が取り組んだのがIT化による工程管理です。昔ながらの工場にLANを構築し、リアルタイムで各工程の状況を把握できるシステムを作り上げました。IT化により、クレームが生じた際に、どこに原因があったのかを遡って調べることが可能となりました。いわゆるトレーサビリティを確保することでクレームに強い体制を作り上げたのです。このような経営におけるIT化の取り組みが評価され、経済産業省の「IT経営百選」に2年連続して選出されました。

皆さんも布地の豊かな表情に接して下さい。そこには、東京和晒株の技が生かされています。



図2 仕上げ工程

この後、傷などの検査を行って出荷される

東京和晒株式会社

東京都葛飾区立石4-14-9 TEL 03-3693-3333

事業化支援部 <墨田支所>

榎本一郎 TEL 03-3624-3814

E-mail : enomoto.ichiro@iri-tokyo.jp